



ライブラリー

神石小学校 図書だより

NO.2

親子読書の取り組み ありがとうございます！

お忙しい中、親子読書の取り組み、ありがとうございました。各学年の教室付近に掲示していますので、10月17日の公開研究会でご覧ください。

ご協力ありがとうございました。



☆親子読書の感想より☆

○「こびとのくつや」 (1年)

こびとが、なぜできてくれて、くつを作ってくれるのか、ふしぎだなと思いました。

(保護者の方から) 読み聞かせてあらためていいなと思いました。親子で一緒のおだやかな時間を過ごすことは、とても大切ですね。

○「ようかいっぱい②」 (2年)

文字を読み終わったら、お母さんと一緒にこのようかいはなんだろうと考えました。

(保護者の方から) 妖怪の絵(一部)や文をヒントに、妖怪の名前や形を考えながら読みました。文字数は少なかったですが、楽しく一緒に想像しながら見ることができました。

○「つみきのいえ」 (3年)

どんどん家がつみかさなるのがおもしろかったです。

(保護者の方から) 家が水にしずんだら、その上に家を積み重ねてその時代を過ごす

...

これは、人生の積み重ねだと思いました。その時その時の出来事や思い出があることをつみ木の家で表現した素敵な絵本でした。

○「おおきな木」 (4年)

あるところに木があって、その木は、少年のことが好きでした。少年はどんどん年をとりました。ぼくは、この本のように親切になりたいです。

(保護者の方から) 後書きを読んだら木は女性の象徴だと書いてありました。みかえりを求めず、少年に与える姿に理不尽さを感じるとともに大きな愛をもつことの大切さやそこに幸せがあるのかもしれないと思いました。

○「78円のいのち」 (5年)

わたしは、この本を読んで、初めて知ったことがあります。それは、動物はたったの78円で命が失われることです。とても悲しい物語です。

(保護者の方から) この本は、命の大切さが身にしみる本でした。なんとなくしか知りませんでしたが、現実を思い知らされた様でとても胸がしめつけられる思いでした。動物を飼うという責任の重さを感じました。

○「こころのふしぎ なぜ? どうして?」 (6年)

心から感じる気持ちにはどんな物があるのか、また嬉しい、悲しい、楽しいなどは世界からもできていると教えてくれます。自分の感じたことのある気持ちにはどうするか分かるのでよかったです。

「むらさきのスカートの女」

「同じ時間にそれぞれの本を読む」という取り組みをされた感想も紹介します。

(保護者の方から) 神石高原町ゆかりの作家さんの受賞作です。書き出しは、平凡な人の日常かなと思いきや、だんだんと引き込まれてドキドキして一気に読んでしまいました。面白いですよ。

☆今回の親子読書では、5人の人が2回以上の親子読書にチャレンジしていました。読書の秋です。親子読書に限らず、今後も引き続いて本を読んでみましょう。